

経営比較分析表（令和3年度決算）

宮城県 綾町

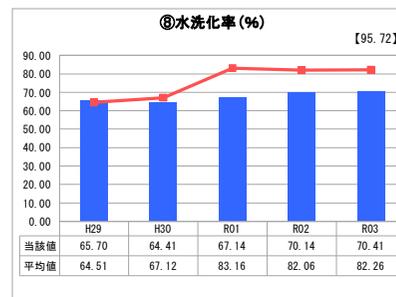
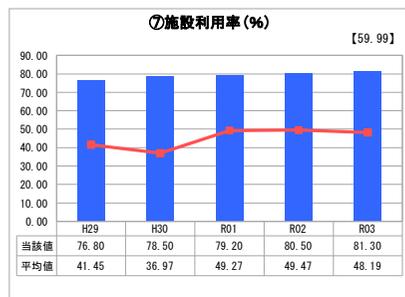
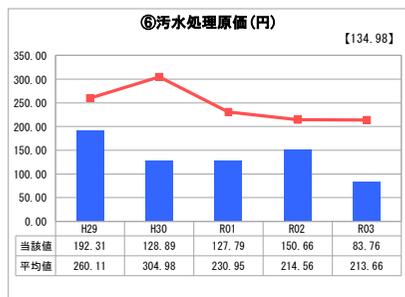
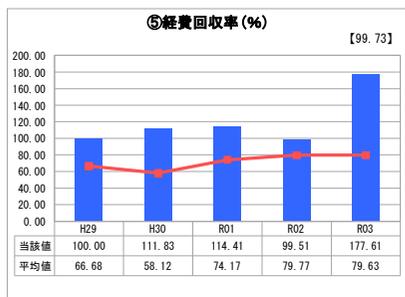
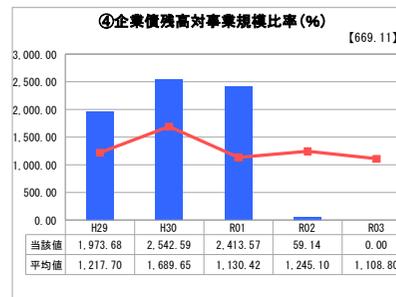
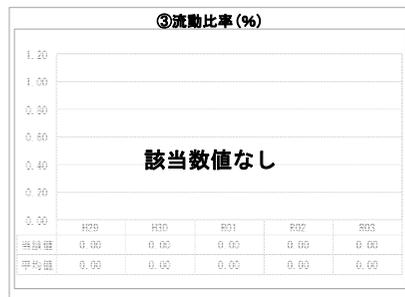
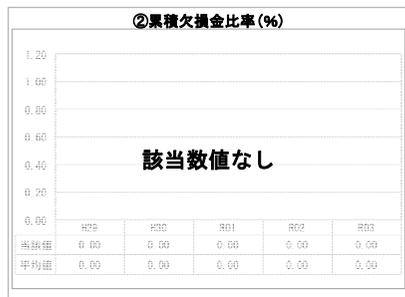
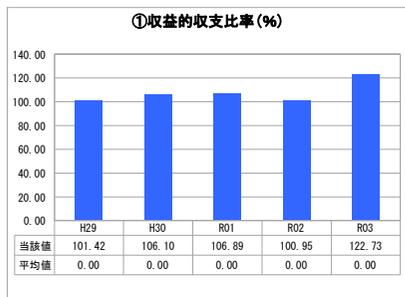
業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法非適用	下水道事業	公共下水道	Cd2	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)	1か月20㎡当たり家庭料金(円)
-	該当数値なし	58.42	104.98	2,680

人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
7,112	95.19	74.71
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km ²)	処理区域内人口密度(人/km ²)
4,140	1.83	2,262.30

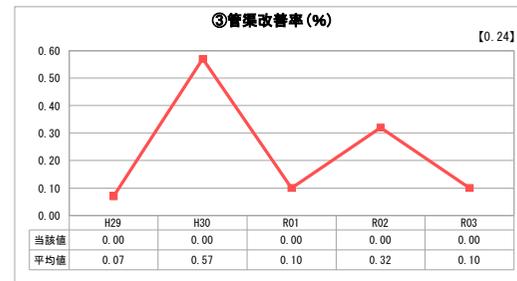
グラフ凡例

- 当該団体値（当該値）
- 類似団体平均値（平均値）
- 【】 令和3年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

①収益的収支比率
100%を超えており、健全性は保たれている。加入戸数（加入率）の増加に比例して使用料も増えており、今後も健全性は担保されると予想している。

④企業債残高対事業規模比率
令和2年度において繰出基準を新しく策定し、企業債については分流式下水道等に要する経費として一般会計が負担することを明確にしたため、大幅な減少となった。

⑤経費回収率、⑥汚水処理原価
企業債を一般会計が負担することを明確化したことにより、使用料収入に対する汚水処理費は低減したため、経費回収率は大幅に増加し、汚水処理原価は大幅に減少した。

また、令和3年度から浄化センターの維持管理業務を包括的民間業務委託により行っており、経費節減や事務負担を軽減しつつ、より安定的な維持管理に努める。

⑦施設利用率
類似団体と比較すると施設利用率は高い状況にあり、適正な規模である。

⑧水洗化率
加入促進に取り組むことで、更なる改善に努める。

2. 老朽化の状況について

平成30年度で管渠や汚水処理施設整備などの面整備は終了した。

浄化センターの機器や設備については、更新時期が到来したものは計画的な更新を行っている。

また、管渠や中継ポンプについては耐用年数を経過しておらず、また定期的に点検を行っており、異常の発見に努めている。

全体総括

綾町公共下水道事業経営戦略（平成29年度策定）では、経営戦略期間中（平成30年度～令和9年度）に使用料の改定を行うこととしており、令和5年度に適正な使用料の算定を行い、令和6年度に料金改定審議会及び議会への議案提出を経て、令和7年度から使用料の改定を行う予定である。

また、将来的には加入率の上昇による汚水処理量の増加も想定されるため、処理施設の増設を検討し、それに対応できる減価基金（貯金）等の積み増しを行っていく。

※ 法適用企業と類似団体区分が同じため、収益的収支比率の類似団体平均等を表示していません。